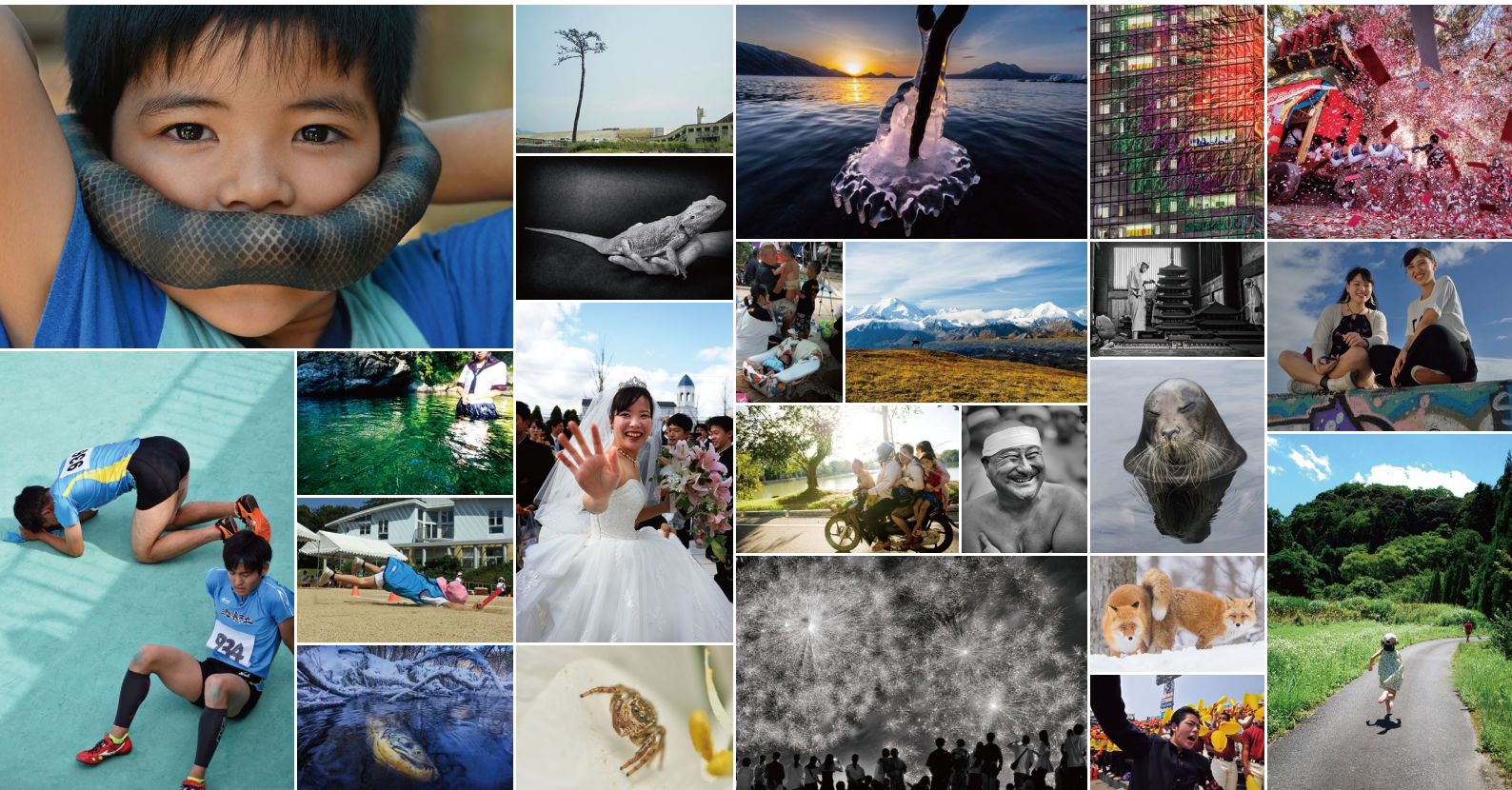


Epson Photo Grand Prix 2019



Epson Photo Grand Prix



田沼武能

近年プリンターの性能が向上し、特殊な操作をしなくても、それなりの色でプリントでき、写真作品を作ることはそれほど難しくなくなってきました。そのぶん写真作品は高度化し、作者の感動が見る人に伝わりやすくなり、作者の感動が詰まった、いわば「魂」を感じられる作品が増えていると思います。ただ、なかには従来の受賞者の真似をした作品も見受けられます。そうしたもののまね的な写真からは、残念ながら作者の感動が伝わらず「魂」のない写真にしかありません。また、作品はプリントして初めて作品として広く評価されます。いくら素晴らしいデータがあっても、プリントしない限り作品として評価されません。そこで写真を撮ったら、もっとプリントしてほしいと思います。そうすると、作品として鑑賞することができるし、人生の素晴らしい歴史を刻んだアルバムも残せると思います。



Profile

1929年東京都生まれ。1949年東京工業専門学校卒業。木村伊兵衛氏に師事する。高度成長以前の東京の様子や下町の暮らしを撮り始めると共に、世界各地の子供の写真を撮り続ける。『文土』『人間万歳』『輝く瞳世界の子供』『トットちゃんとアフガニスタンの子供たち』『地球星の子どもたち』『武蔵野讃歌』など、数多くの写真集を出版。『ぼくたち地球っこ』『戦後の子供たち』『60億の肖像』『東京わが残像』『未来に架ける世界の子ども』など写真展も数多く開催。また、35年間にわたりユニセフ親善大使の黒柳徹子さんと同行、親善大使と世界の子供の交流の撮影を続ける。モービル児童文化賞、菊池寛賞など受賞多数。1990年紫綬褒章受章。2003年文化功労者顕彰。2019年写真家初の文化勲章受章。現在(社)日本写真著作権協会会長、東京工芸大学芸術学部名誉教授を務める。



三好和義

今回は大きなプリントで迫力のある作品や、てらいのない透明感が感じられる作品が多かったのが印象的でした。それでいて、多くの作品は作者自身の世界観をしっかりと持ったものであったように思います。このコンテストは大きく4部門に分かれています。ネイチャーでありながらヒューマンライフの要素があったり、その逆であったりと境目がどこにあるのか考えさせられる作品も登場し、バラエティーに富んだ作品が増えています。学生部門やモノクロ作品部門も含め、写真の世界観が広がって行くのが感じられて審査しながらも面白く感じました。プリントの質も年々向上し、モノクロ写真を中心に用紙選びの重要度も増えていると思います。そうしたプリントによる作品の違いが際立つのは、エプソンのコンテストならではの再認識した審査でした。



Profile

1958年徳島県生まれ。小学生の頃よりカメラに興味を持ち作品作りに励む。中学生の時に地元の新聞に作品が掲載。そのことをきっかけに写真家を目指す。高校時代の二科展入選をはじめ、様々な「最年少」記録を作る。27歳で受賞した木村伊兵衛賞も当時最年少。その後「楽園」をテーマに世界各地のリゾートを撮影。「楽園」は日本にもあると、屋久島、富士山、日本の世界遺産などを撮影。近年は国宝の仏像、京都御所、桂離宮、伊勢神宮などを撮影。30冊を超える写真集を発表している。代表的な写真集『RAKUEN』(小学館)『SAHARA!金の砂 銀の星』(文藝春秋)『富士山』(講談社)『世界遺産 屋久島』(小学館)『京都の御所と離宮』(朝日新聞出版)『室生寺』(クレヴィス)など。

[いちゃりばちよーでー]

山中健次

作品サイズ:A3ノビ、43枚組作品 使用プリンター:エプソン「SC-PX3V」 使用用紙:エプソン「フォトマット紙/顔料専用」

● 審査員講評

田沼武能

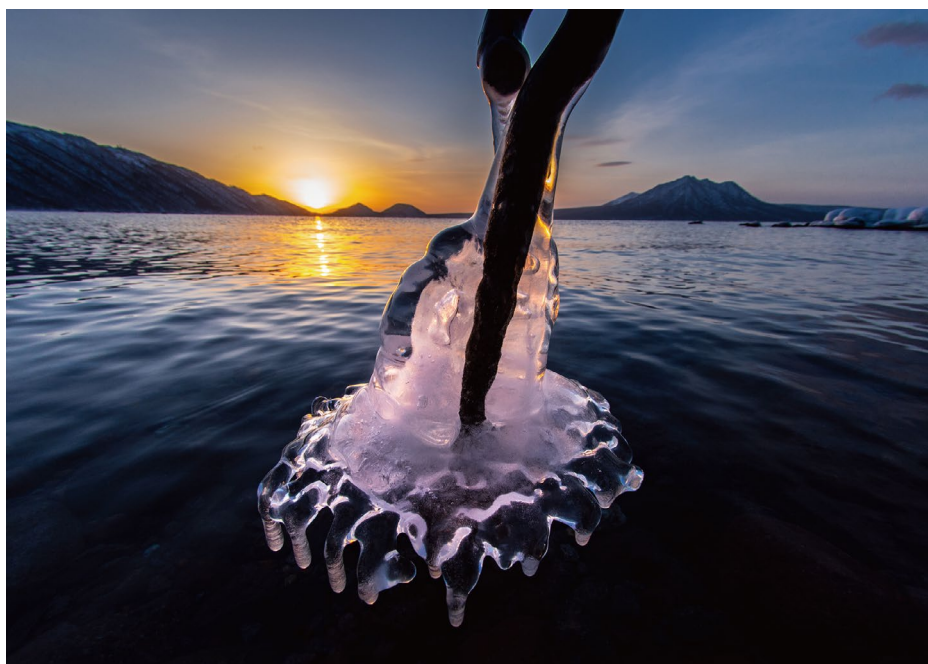
都市部ではなかなか見ることができなくなった子どもたちの警戒心のない透き通った瞳や青空の印象を強く感じる作品です。タイトルは“一度出逢ったら皆兄弟”といった意味の沖縄の方言だそうです。きっと作者は沖縄に通って実際に皆と友達や仲間になったからこそ、撮ることができた表情やポーズなのではないかと思います。顔料インク採用のSC-PX3Vを使用したプリントも仕上げが良く、大きなA3ノビのプリントが作品を更に冴えて見せています。白フチの付け方なども適切です。ベテランの作者らしく、撮影から仕上げまでを考え抜いた安定感のある作風も魅力的です。

三好和義

旅先に限らず、被写体となる人物とコミュニケーションをとりながら撮影するのは、なかなか難しいのではないかと思います。ところが、この作品では旅先である沖縄の地で、まるで友達や家族を撮るかのように人物の表情を引き出していて、作品の最大の魅力につながっています。おそらく、時間をかけて撮り溜めることで良い表情や面白いシチュエーションを引き出しているのだと思いますが、人物にここまで迫って表情などを的確にとらえている点は、作者の技量も感じさせます。プリントもマット紙を上手く生かしていて、作品にあった表現になっていると思います。



● 優秀賞



[冬将軍の燭台] 飯高光紀

作品サイズ：A3、単作品 使用プリンター：エプソン「EP-4004」 使用用紙：エプソン「写真用紙クリスピー<高光沢>」

● 審査員講評

田沼武能

北海道ならではの、迫力のある氷の写真。日の光の入れ方や調子の整え方、構図の作り込みなどに作者の技術の高さを感じられる作品です。氷のオブジェを通して見える背景の景色も魅力的で、計算された美しさを感じます。撮影にはハーフNDフィルターを使用して輝度差を緩和しているようですが、夕日や朝日が画面に直接入る撮影では、フィルターだけでは緩和しきれないと思います。それらの表現はプリント時の仕上げなどで調整しているのだと思いますが、その仕上げもとても丁寧です。

三好和義

冬の湖で鳥の足のような面白い形状の“しぶき氷”を見つけ出し、逆光で美しくとらえた点が、この作品の重要なポイントです。さらに広角レンズを使い、被写体に近寄って大きく撮るといったアングルの面白さもあります。その上で、透明感のある氷と静かな水面の質感が上手く画面構成され、全体の色調も整っています。プリントも染料インクのプリンターと写真用紙クリスピーの組み合わせで、水の質感やオレンジ色の光などが、クリアに仕上げられている点も素晴らしいと思います。

● 入選



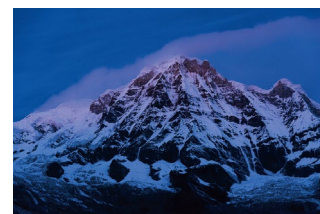
[蛍の参道] 望月 茂

作品サイズ：A4、3枚組作品
使用プリンター：エプソン「PX-5V」



[遺伝子を繋ぐ営み] 東倉祐治

作品サイズ：A4、5枚組作品
使用プリンター：キャノン「PIXUS iP8730」



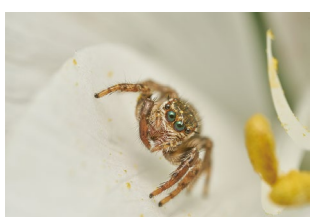
[天地創造 ～ヒマラヤ] 石川敏之

作品サイズ：A3ノビ、5枚組作品
使用プリンター：エプソン「SC-PX5VⅡ」



[神々の舞] 安部 諭

作品サイズ：A3、単作品
使用プリンター：エプソン「SC-PX3V」



[小さな世界] 松尾 のり子

作品サイズ：A3、9枚組作品
使用プリンター：エプソン「SC-PX5VⅡ」

● 審査員賞



田沼武能賞

[命絶えても] 村上和子

作品サイズ：A3ノビ、単作品 使用プリンター：エプソン「EP-4004」
使用用紙：エプソン「写真用紙クリスピー<高光沢>」

三好和義賞

[原野に佇むカリブー] 長友泰樹

作品サイズ：A3ノビ、単作品 使用プリンター：エプソン「PX-5V」
使用用紙：エプソン「写真用紙クリスピー<高光沢>」

● 審査員講評

田沼武能

どんな生き物でも「死」から逃れられないのは宿命ですが、死してなお生命を感じさせるという奥の深い作品です。手前に大きく魚を入れつつ背景も広く入れるなど広角レンズを使い、カメラアングルを水面近くに構え、ドラマチックな撮影手法でとられていて、その画面構成は作者の考えが十分に反映されているのが伝わってきます。しかも、全体としては青っぽい画面にオレンジ色の魚の色合いが映え、その生命の存在が際立って見える点も素晴らしいと感じます。染料インクによる鮮やかな仕上がりも、この写真に適しています。

三好和義

アラスカで撮影されたカリブーの写真。広大な風景のなかに、日の光を受けてポツンとたたずむカリブーを小さめに構成したのがポイントです。それにより、雄大な景色のなかに写真を見る人が引き込まれて行くような感覚を覚える、スケールの大きな作品になっています。カリブーの配置や視線が、撮影者との気持ちのつながりを表しているように感じられる点もユニークです。フチなしの大きなプリントにより、風景の雄大さや広がり感、緻密さなども際立っています。

● 佳作



[Leaf and Ice] 小宅葉子
作品サイズ：A4、3枚組作品
使用プリンター：エプソン「SC-PX5V」



[天地浪漫] 浅倉忠則
作品サイズ：A3、単作品
使用プリンター：エプソン「PX-5V」



[朽ちてなお] 三井雅之
作品サイズ：A3ノビ、単作品
使用プリンター：エプソン「PX-7V」

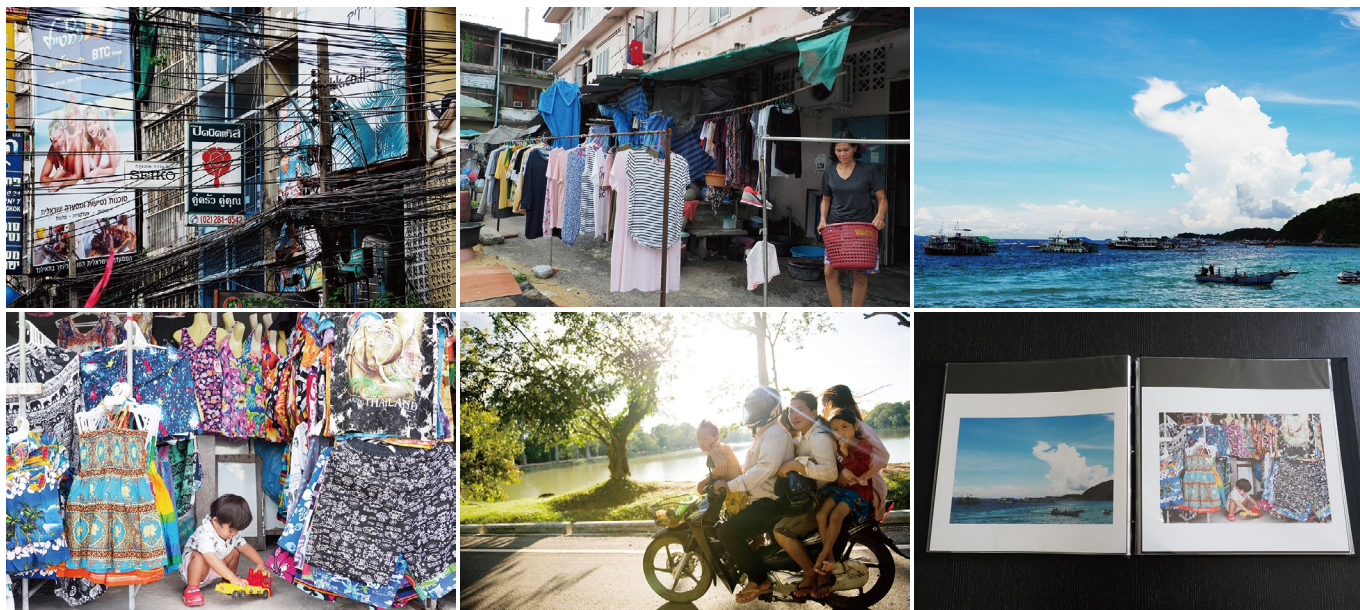


[共振] 重村哲雄
作品サイズ：A4、単作品
使用プリンター：エプソン「PX-7V」



[同居人「キジバト」の子育て日記] 塚原勝二
作品サイズ：A4、22枚組作品
使用プリンター：エプソン「PX-5002」

● 優秀賞



【「旅をする……」】 中村 翔

作品サイズ：四切、39枚ブック作品 使用プリンター：エプソン「SC-PX3V」 使用用紙：エプソン「写真用紙クリスピー<高光沢>」

● 審査員講評

田沼武能

旅をテーマにした作品ですが、作者は“写真に見せること”を十分に熟知し、その都度丁寧に心に残る画面に撮影しているのが伝わってくる質の高い作品です。作者が感じた旅の記憶や思い出、感動、旅の楽しさなどが一枚一枚の写真に写し出されていて、撮影シーンが臨場感を持って写真を見る人にも伝わってくる内容となっているのが、この作品の魅力です。ブック形式での応募ですが、写真の構成やプリント、用紙の選択など的確であり、プリント技術の面でも優れていると思います。

三好和義

アジアのさりげない日常を、自然に切り取っている点が楽しく感じられる作品です。旅先での写真を自然に撮るのは、いくら頑張っても難しいものですが、作者は上手にさりげないシーンを切り取っていると思います。また、ブック形式とすることで見開き単位での写真の組み合わせが生まれ、その組み合わせの上手さから、上質な写真集を見ているような、あるいは一緒に旅をしているような感覚が伝わってきます。プリントも上手く、調子も現代的で飽きずに見ていられる作品です。

● 入選



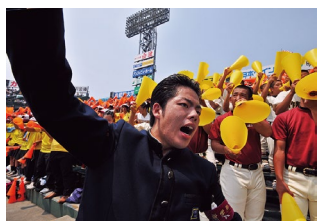
【春の朝】星川明美
作品サイズ：A4、8枚組作品
使用プリンター：エプソン「SC-PX5V」



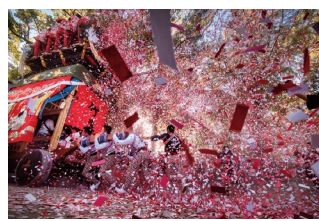
【誕生】首藤健富
作品サイズ：A3、単作品
使用プリンター：エプソン「PX-7V」



【わくわくパレード】石津武史
作品サイズ：A3ノビロール、単作品
使用プリンター：エプソン「PX-5V」



【アルプススタンドの記憶】宮沢千春
作品サイズ：A3、58枚組作品
使用プリンター：エプソン「SC-PX5V」



【クライマックス】宮本節夫
作品サイズ：A3ノビ、単作品
使用プリンター：エプソン「PX-5V」

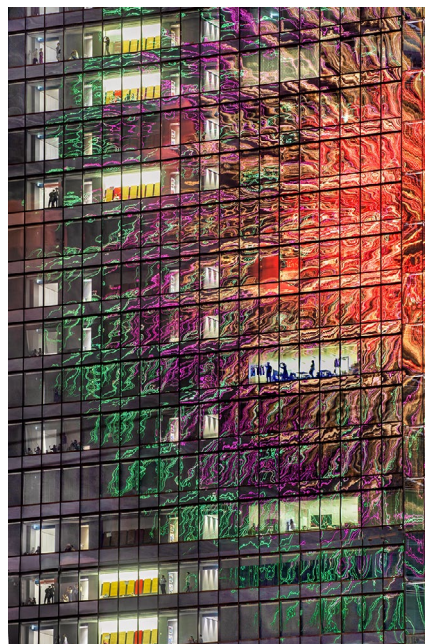
● 審査員賞



田沼武能賞

[痛(いた)] 澤 勝弘

作品サイズ: A3、単作品 使用プリンター: エプソン「EP-979A3」
 使用用紙 : エプソン「写真用紙クリスピー<高光沢>」



三好和義賞

[花火] 上田節子

作品サイズ: A3ノビ、単作品 使用プリンター: エプソン「SC-PX5VⅡ」
 使用用紙 : エプソン「写真用紙クリスピー<高光沢>」

● 審査員講評

田沼武能

運動会でバトンを持って走って、転んでもバトンを握りしめているという微笑ましい心を打つ瞬間をとらえた作品。まさにシャッターチャンスの上手さを感じさせてくれる写真です。ともすれば、痛々しい瞬間になり兼ねないのですが、子どもが必死にバトンを握りしめていたり、土が跳ねていたりするなど動きが感じられる瞬間をとらえたことで、その真剣な姿に引き付けられる写真です。プリントも自然な色で見たままに再現しており、嫌味のない素直な質感描写が作品に合っています。

三好和義

花火がビルのガラス面に反射している様子を捉えています。しかも、よく見ると建物のなかに写し出されているすべての人たちが花火を撮ろうとカメラやスマートフォンを構えているなど、さまざまな点で驚きに満ちた瞬間になっているのが、この写真の楽しいところです。花火の色の鮮やかさやガラスの質感なども含め、ここまで緻密に写るという驚きもありますが、写っている人たちがほとんどぶれずに写っている点にも驚かされます。構図も秀逸で、力強さの感じられる作品です。

● 佳作



[佳き日] 山崎 猛
 作品サイズ: 四切、単作品
 使用プリンター: エプソン「PX-5500」



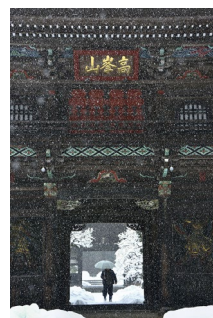
[沈下橋の詩] 樋口良夫
 作品サイズ: A3ノビ、7枚組作品
 使用プリンター: エプソン「SC-PX5VⅡ」



[令和元年～新しき風～] 福岡育代
 作品サイズ: A3ノビ、5枚組作品
 使用プリンター: エプソン「PX-5600」



[出番に待つ] 佐藤義敏
 作品サイズ: A4、単作品
 使用プリンター: エプソン「EP-10VA」



[古刹春秋 高峯山 天寧寺] 新井明夫
 作品サイズ: A4、59枚ブック作品
 使用プリンター: エプソン「SC-PX5VⅡ」

● 優秀賞（個人制作）



[戦い終えて]

大浦 綾斗

徳島県立阿南光高等学校

作品サイズ：A4、単作品

使用プリンター：エプソン「PX-5V」

使用用紙：エプソン

「写真用紙クリスピー<高光沢>」

● 審査員講評

田沼武能

徒競走後の選手の様子を写したものと思われませんが、全力を出し切って虚脱感を感じている選手と、その後方で悔しがる選手という対照的な2名が写し込まれている、写真でなくては表現できない優れた作品です。競技場のスタンドから望遠レンズを使って見下ろすように撮ったことで周囲の情報が省かれ、選手の様子や配置が際立って見える点も秀逸で、日向と日陰がクッキリと分かれているさまは、選手の心情ともつながっているようで、この作品の物語性を高めています。

三好和義

ドラマチックなシーンを上からのアングルでとらえている点が斬新だと思います。加えて、トラックの水色や陰の部分なども、選手の悔しい気持ちを表しているようで、直前に行われたであろう競技で生まれたドラマを感じさせ、緊張感のある作品に仕上がっています。作者はまだ17歳とのことなので計算し尽して撮影されたものではなく、友人の記録として撮られたうちの1枚かもしれないが、いずれにしても、このカットに注目して作品としたところに作者のセンスを感じます。

● 審査員賞



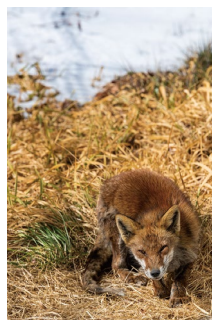
[いい気持ち] 下條良菜

北九州市立沼小学校
作品サイズ：A4、単作品
使用プリンター：エプソン「SC-PX5VⅡ」



[幸せになります] 竹内 よしの

福井県立丹生高等学校
作品サイズ：A3、単作品
使用プリンター：キヤノン「PIXUS PRO-100S」



[老狐] 高橋直暉

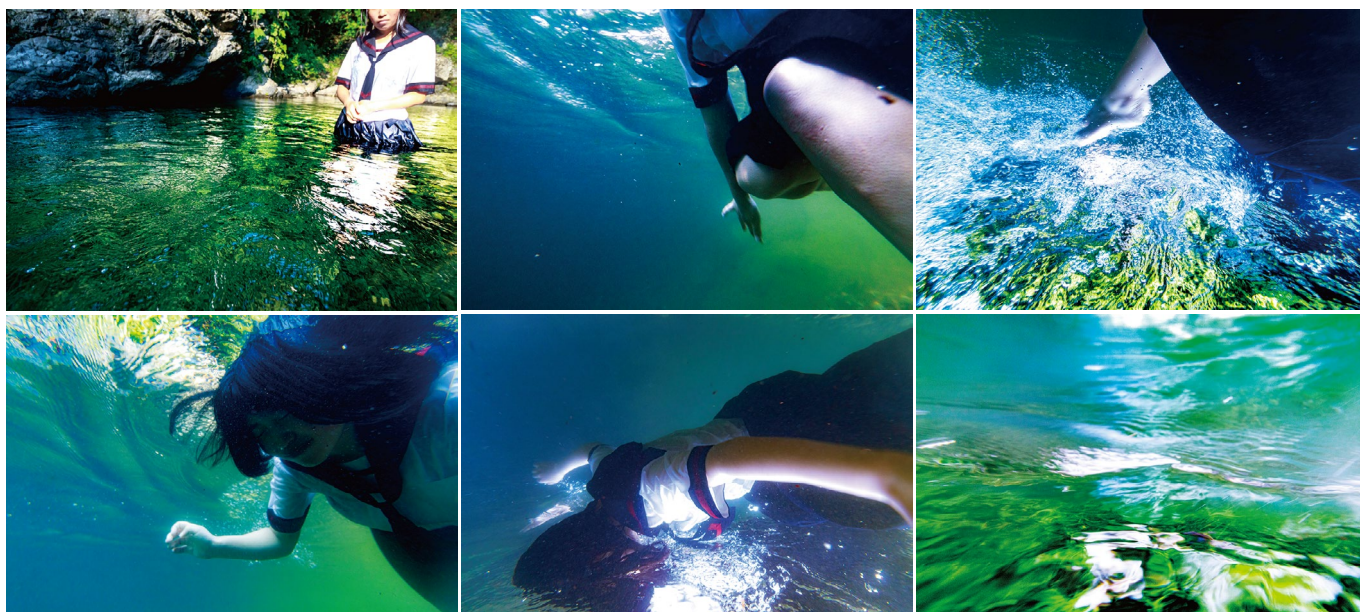
日本大学芸術学部 写真学科
作品サイズ：A4、単作品
使用プリンター：キヤノン「PIXUS PRO-100S」



[一瞬の夏] 小笠原 利香

島根県立大田高等学校
作品サイズ：A4、単作品
使用プリンター：エプソン「SC-PX5VⅡ」

● 優秀賞（グループ制作）



【 宝石の国 】 群馬県立富岡実業高等学校 写真部

作品サイズ：A3ノビ、10枚組作品 使用プリンター：エプソン「SC-PX3V」 使用用紙：ビクトリコ「ビクトリコプロ・セミグロスペーパー」

● 審査員講評

田沼武能

これは、若い感性でしか撮れない写真ですね。無理に上手く撮ろうとするのではなく感覚的に撮られた写真は、まるで現代アートを見ているかのようで“凄み”や“驚き”が感じられます。こうした感性は、学んだり訓練したりして身につくものではなく、生まれ育った環境などが与えてくれるものであり、彼らなりに感動して撮っているものはずです。これらを正当に評価するのは年長者には難しいかも知れませんが、その新鮮な感性を今後も伸ばして行ってほしいと思います。

三好和義

作者の感性の鋭さを感じます。そして、その感性で感じたものを、どのように実現するか試行錯誤した結果が、この作品なのだと思います。それだけに作者の気迫のようなものも感じられますが、それがこの作品の持つ、斬新さや面白さにつながっているようです。撮影後には、ホワイトバランスや色調などを調整して、独自の世界観を作り上げているのだと思いますが、あらためて『宝石の国』という作品タイトルを見返すと納得の行く表現であり、強い創作意欲が感じられます。

● 入選



【 Love Love Love 】 愛媛県立今治北高等学校大三島分校 写真部
作品サイズ：A4、16枚組
使用プリンター：エプソン「PX-5V」



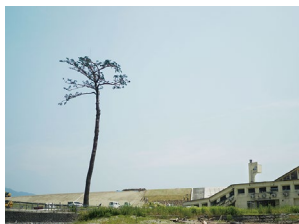
【 海ガエル 】 植松大地
香川県立多度津高等学校
作品サイズ：A4、単作品
使用プリンター：エプソン「EP-30VA」



【 あそびあそばせ 】 唐渡祐汰
学校法人穴吹学園 専門学校穴吹デザインカレッジ
作品サイズ：A4、単作品
使用プリンター：エプソン「EP-4004」



【 負けれない 】 増渕花梨
向上高等学校
作品サイズ：A4、単作品
使用プリンター：キャノン「PIXUS T8030」



【 置きざりにした悲しみは 】 西山洋花
東京都立小石川中等教育学校
作品サイズ：A3、10枚組作品
使用プリンター：エプソン「EP-10VA」

● 優秀賞



【夏の思い出】鈴木一彦

作品サイズ：A3、単作品 使用プリンター：エプソン「PX-5V」 使用用紙：エプソン「写真用紙クリスピー<高光沢>」

● 審査員講評

田沼武能

花火大会のクライマックスと思われるシーンを、あえてモノクロで表現した力強い作品。しかも、画面の下方、手前側に花火を見る観客をシルエットに入れて入れたことで、単なる花火の写真ではなく、タイトルの『夏の思い出』を感じさせる作品に仕上がっています。画面構成的には、大半を花火で占めて花火の力強さを引き出していますが、モノクロにして花火の色を省くことで、シルエットの面白さも際立って見えます。作者の撮影技術と画面構成の上手が光る作品といえます。

三好和義

花火がタンポポの綿毛のような細い線で描写されるなど、描写の繊細さに魅力を感じた作品です。しかも、モノクロに仕上げたことでシャープさも際立っていて素晴らしいと思います。さらに地面をカットしながら人物を入れたことで、花火のスケール感が伝わるだけでなく、人物の動きやしぐさも見え、物語性の感じられる作品に仕上がっています。プリントも黒くつぶれるといったことがなく、花火の色が感じられるような階調豊かな仕上がりで、作品の1つの魅力になっています。

● 入選



【村のオフシーズン】有賀忠幸
作品サイズ：A3、5枚組作品
使用プリンター：エプソン「EP-50V」



【バレリーナ】安藤宏幸
作品サイズ：四切、2枚組作品
使用プリンター：キヤノン「PIXUS iP8730」



【出陣前の一瞬】安養寺亨
作品サイズ：A3ノビ、単作品
使用プリンター：エプソン「SC-PX3V」

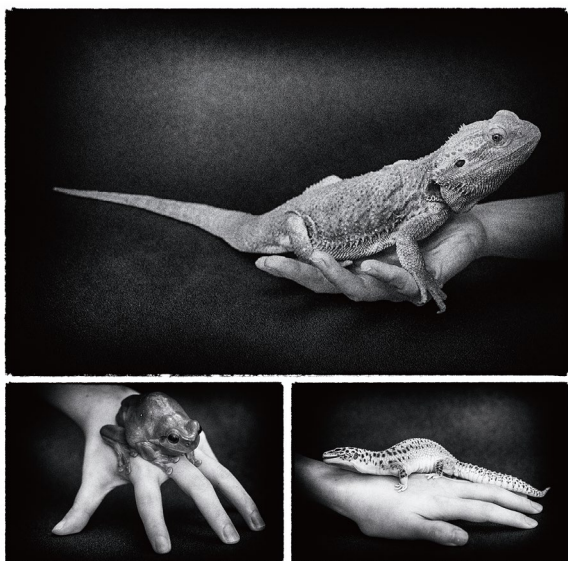


【静かな刻(とき)】平山 順一郎
作品サイズ：A3、22枚組作品
使用プリンター：エプソン「SC-PX5V」



【お参り】池上和夫
作品サイズ：四切、単作品
使用プリンター：エプソン「SC-PX5V」

● 審査員賞



田沼武能賞

[触] 村田 和佳子

作品サイズ:A3ノビ、3枚組作品 使用プリンター:エプソン「SC-PX5VⅡ」
 使用用紙 :アワガミファクトリー「竹和紙」

● 審査員講評

田沼武能

生物を被写体として撮影した作品は、たくさんありましたが、掌にのせ人間との関係、大きさを表現して撮るというアイデアが素晴らしい。バックを黒くして、トカゲやカエルを浮かせながらせることにより、生物の生命力を強調しています。そして、生物の皮膚の質感も上手に表現されています。作品のフチの部分は、手でちぎった様な、和紙のフチの様な感じに仕上げている、トータル的に作品を見せるところまで目が行き届いて、素晴らしい作品に仕上げられています。

【 エプソンフォトグランプリ2019概要

■ 応募部門

[ネイチャー部門](サイズ:六切・A4以上)

主として自然風景、動植物、昆虫などをテーマとしてプリントされた写真作品。

[ヒューマンライフ部門](サイズ:六切・A4以上)

人物スナップ、都市景観、暮らし、ドキュメンタリーなど主として人々の生活をテーマにプリントされた写真作品。

[モノクロ作品部門](サイズ:六切・A4以上)

自由なテーマで、モノクロで表現されたプリント作品。

[学生部門](サイズ:L判以上)

ジャンルは自然、風景、動植物、人間、暮らしなど、自由なテーマでプリントされた写真作品。 ※応募時点で、小学校・中学校・高等学校、大学、専門学校に在籍する学生の方



三好和義賞

[浄める] 吉川秀徳

作品サイズ:B4、5枚組作品 使用プリンター:エプソン「PX-5V」
 使用用紙 :コクヨ「インクジェットプリンタ用紙<写真用紙>」

三好和義

奈良・東大寺大仏殿の「お身拭い」を撮影した写真です。しかし、単に大仏さまを撮るのではなく、本物の大仏さまと模型の写真を組み合わせている点がユニークな作品。これにより、「ガリバー旅行記」を思わせるような、スケールの対比の面白さを演出しています。加えて、フィルムを増感現像したかのような粒状感のある硬い仕上がりにしている点が、この作品の世界観を強調していて、より不思議な感じを強めています。着眼点と写真の組み合わせの上手さが光る作品です。

■ 賞・賞金・副賞

[グランプリ]

賞金 100万円 (1名)

[ネイチャー部門][ヒューマンライフ部門]

- ・優秀賞 賞金30万円(各1名)
- ・審査員賞 賞金10万円(各2名)
- ・入選 賞金 1万円(各5名)
- ・佳作 表彰状(各5名)

[モノクロ作品部門]

- ・優秀賞 賞金30万円(1名)
- ・審査員賞 賞金10万円(2名)
- ・入選 賞金 1万円(5名)

[学生部門]

- ・優秀賞(個人制作) SC-PX5VⅡ(1名)
- ・優秀賞(グループ制作) SC-PX5VⅡ(1グループ)
- ・審査員賞 EP-10VA 各1台(4名)
- ・入選 EP-30VA 各1台(5名)

■HPアドレス www.epson.jp/photocontest/